

9月の農業情報

タイトル            ブロッコリー栽培で乗用定植機の利用が広まる

とき                令和元年9月20日(金)

ところ              田原市野田町、大久保町

主体・対象        JA愛知みなみ田原洋菜部会(226名)

内容

ブロッコリー栽培で乗用定植機の利用が広まりつつあり、平成29年から令和元年9月までに4戸が導入した。導入した生産者は、作業効率の向上や疲労の軽減効果を高く評価している。産地規模の維持に向けて、規模拡大を目指す生産者への普及拡大が期待される。

導入した4戸のうち3戸に共通する事項として、3ha以上の経営面積を有していること、乗用管理機やブームスプレーヤ等の乗用機械体系が整っていること、定植作業を行うのが主に女性であることの3点が挙げられる。

3haの経営規模の生産者が定植作業を行うと、約1か月半で合計45km以上も歩くことになるため疲労感が大きかった。そのため、乗用定植機を導入した生産者からは「体が非常に楽になった」との意見が多い。

慣行の定植機は、1条植えで、予備セルトレイ苗が5枚(約1a分)載せられるのに対し、乗用定植機は2条同時植えで、苗は12枚(約2.5a分)載せることができ、定植作業の効率化が期待できる。2条同時植えという特性から、複条栽培の多いブロッコリー生産者で導入が進んでいる。

農業改良普及課は、定植作業の効率化につながる乗用定植機の利用状況を調査して生産者に周知していく。



乗用定植機の作業風景